



武の子

令和7年11月25日

恵那市立武並小学校

学校報 NO.8

TEL : 0573-26-6873

E-mail: takenami-e@ena.gif.ed.jp

武並小の授業研究について

校長 各務 恵美

児童に確かな学力を育むために、自校では国語科を主たる研究教科と定めて授業づくりに取り組んでいます。令和5年度に恵那市教育委員会の指定を受け、5、6、7年度の3年間は、恵那市教育委員会、教育研究所、東濃教育事務所 教育支援課の指導のもと、国語の授業において、『確かな“読みの力”を身に付けた児童の育成』という研究テーマを作り、児童一人一人の個別の学びと、仲間と考えを出し合い、自分の考えを再構築したり、仲間の考えに納得したりして学ぶ協働的な学びを深めながら授業づくりに邁進してきました。

11月28日（金）には、市内小学校6校の先生方や市外の先生方が自校の授業を参観し、授業や研究のあゆみについての考えや、感想を協議し、指導者である市内6校の校長先生方からご指導をいただきます。3年間の研究の成果を発表したいと思います。今後は、ご指導やご意見いただいた成果と課題を検証し、『授業が楽しい、授業っておもしろい』と思える主体的な学びに繋げていけたらと考えます。

研究を進める中で、国語の授業を支えるのは、「読書活動」であることを強く感じています。『音読道場運営事務局』の「読書が“読解力”になるとき ～読むだけで終わらない力の育て方～」のコラムでは、月に1～3冊読むだけでも、0冊の子供より読解力がぐっと高いと考察しています。（下図ベネッセ調査引用）

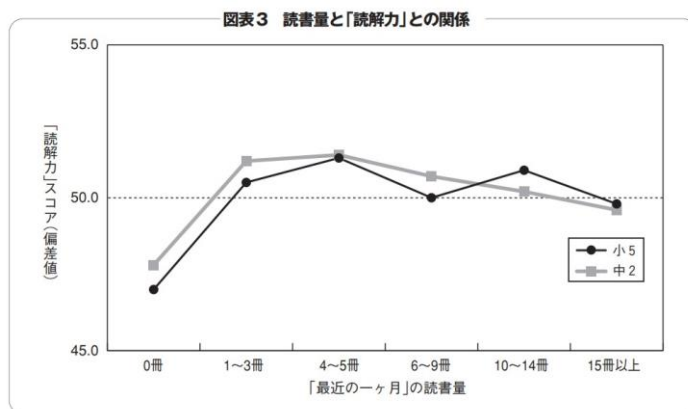
ベネッセの調査では、さらに、月にたくさん本を読んでいる子供でも、「読んだことについて人と話す週間がない」場合は、読解力が思ったほど伸びていないという傾向があることを音読道場運営事務局が公表しています。

自校では、PTAや地域の方の「読み聞かせ」で感想を発表する時間を作ってくださいしています。読んだ本のことを誰かに話す。感じたことを自分の言葉で表現するということは、“読解力”を育てる土台となると考えています。

授業と同じような、読む → 感じる →

話す → 伝える というサイクルを読書活動でも取り入れていきたいです。

家庭読書でも、お子さんに「今どんな本をよんでいるの」「読んだ所までの感想を教えて」などと対話する機会を設けていただけると嬉しいです



3年生・6年生 中山道学習

武並町中山道保存会の方を講師に迎え、武並町を通る中山道について学んだり、中山道以前に栄えた下街道（現 美濃、中切を通る道）を歩いたりした学習を行いました。

武並町にある古墳も見学しました。見学の成果等については武並振興事務所で展示発表する予定です。



